



国際共生社会研究センター

Center for Sustainable Development Studies

オープンリサーチセンター

国際協力のニューパラダイムに向けて

東洋大学国際共生社会研究センター（オープン・リサーチ・センター）

プロジェクト1 研究員 教授 北脇 秀敏

今年9月7日に井上円了ホールで「国際協力のニューパラダイムに向けて」と題した国際シンポジウムが開催される。これは最終年度を迎えた国際共生社会研究センターの活動を締めくくる最終国際シンポジウムであると同時に、センターの活動延長に向けた新しい活動計画を宣言する場となるものである。センターでは設立以降、アジア地域の大都市圏等を主なフィールドとした生活環境の改善や国際共生社会論の体系化、地域開発シミュレータの開発等の分野で活動してきた。今後はその成果を活かしつつ、センターの活動が延長された暁には一歩前進してわが国の国際協力に対する支援を実践していく必要があると考えている。

ところで過去の国際協力を時間的に概観すると、第二次大戦後の冷戦時代における東西両陣営内のODA合戦の時代から、1990年台以降のポスト冷戦体制におけるODAの衰退とNGOの台頭とPFIの積極的な導入

と移り変わり、最近では貧困やテロとの闘いが大きな比重を占めてきた。一方個々の途上国に目を向けると民族対立やテロ等の紛争当事国における平和構築が必要とされる「混沌」の段階の国、紛争の惨害や政策の転換による混乱などから立ち直り国を立て直しつつある「変遷期」の国、安定した発展途上にあり援助を卒業しつつある「発展期」の国もある。

センターでは、このうち「変遷期」の国に関する研究が特に大事であると考えている。すなわち国際社会の支援が適切であれば「発展期」に進めるが、対応を誤れば再び「混沌」に逆戻りしかねない危うさがあるのが変遷期の特徴である。今回の国際シンポジウムでは、この「変遷期」の国の代表格である東ティモールで指導的立場にある演者を招き、大きく変わる国際社会に対応した国際協力のニューパラダイムを議論したい。

国際シンポジウム 「国際協力のニューパラダイムに向けて」

日時：2005年9月7日(水) 13:00開場

会場：井上記念館井上円了ホール（東京都文京区白山5-28-20：東洋大学白山キャンパス内）

使用言語：日本語、英語の同時通訳（入場無料）

■ スケジュール ■	■ 講演者及び演題 ■
開会 13:30	開会 挨拶 東洋大学学長・国際共生社会研究センター長 松尾 友矩
講演 (13:50~16:50)	「日本の国際化と国際協力」 東洋大学 総長 塩川 正十郎
	「国造りに関して国際社会が果たすべき役割」 東洋大学大学院客員教授 国連事務総長特別代表（国連東ティモール事務所代表） 長谷川 祐弘
	「東ティモールと国際協力」 東ティモール民主共和国外務・協力上級大臣 ノーベル平和賞受賞者（1996年） ラモス・ホルタ
	「今後の国際協力とニューパラダイム」 東洋大学大学院国際地域学研究科委員長 国際共生社会研究センター研究員 北脇 秀敏
閉会 (16:50)	
レセプション (17:20~)	

- 講演者・演題は変更されることがあります。予めご了承ください。
- 申し込みは、お名前、御所属、住所、E-mailまたはお電話番号、ご出席（シンポジウム、レセプションの別）を添えて、orc@itakura.toyo.ac.jpもしくは0276-82-9140までお願いいたします。